

ニューソフィア

New Sophia

77号

[vol.21-1]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています



Greeting

理事長・学長 年頭挨拶

Featuring News

学部学科の名称変更について
老化制御研究センター長インタビュー
私立大学教育研究活性化設備整備事業に採択

Special Event

福岡歯科大学 創立40周年記念式典・祝宴
創立40周年記念口腔医学国際シンポジウム／学会総会
創立40周年健康まるごと福岡学園

College News

- 歯びびコンテストで金賞・銀賞をダブル受賞！
- 学納金減額／特待生奨学金制度
- 福岡歯科大学口腔医療センター
1周年記念報告会を開催
- 4月から小児科、整形外科開設
- 比嘉奈津美氏(8期)、衆議院議員に
- 長友泰明監事ご逝去

Event

- 献体者慰霊祭／実験動物慰霊祭
- お口と体の無料健康相談
- シティプラザクリスマス忘年会
- 大学院特別講義

From The Alumni Association

同窓会だよ

Hi! From Clinic

- ◆ おそえがわ歯科へ佐賀県佐賀市
- ◆ 荒瀬歯科医院へ熊本県

Messages From Students & Parents

学生と保護者様からのメッセージ

Information

平成25年度入試日程／福岡医療短期大学特別奨学生

12

11

10 10

9

8

7 7 7 7

7 6

6 6 4

3 3 3

2



理事長 田中 健蔵

更なる飛躍・発展に
向けた起点となる
一年へ

年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

平成25年の年頭にあたり、本年が福岡学園にとつて、また本学園の教職員、学生諸君そして同窓生の皆様にとつて良き年になることを心から願っております。

わが国では、政権交代を機に「復興」「経済」「外交」「社会保障」等の山積した様々な問題解決に向けて、新たな取り組みが始まろうとしております。そのついでに「教育」も挙げられ、大学教育の見直しや質の向上・充実等、国力としての「大学力」の強化が推進されることと思っております。

本学園においても、昨年、創立40周年という節目を迎え、本年4月からは大学の学部学科名を「口腔歯学部」「口腔歯学科」と変更するほか、大学の認証評価、病院の機能評価の受審、教育、臨床実習の充実、医科診療科の拡充等を目指し、本年を更なる飛躍・発展に向けた起点となる年と位置付けて、活力のある充実した年にしたいと考えております。以下に述べます10項目を、全学を挙げて取り組む本年の重点項目として努力したいと思っております。皆様のご盡力、ご協力をお願いします。

〔口腔医学の確立・育成〕

第一に、「口腔医学」の理念を、関係諸団体、大学、社会等に理解していただくよう努める。8大学連携事業を推進するとともに、他大学、医療団体および地域の医療機関との連携を推進する。

〔優秀な学生の確保〕

第二に、学生募集活動の一層の効率化を図る。指定校についても見直しを行う。大学案内のリニューアルをはじめ、教育財務情報等の公開を充実する。特待生制度の拡充等、優秀な学生の経済的支援を検討する。

〔国家試験対策等〕

第三に、教養ある歯科医師育成を目指し、歯科医師国家試験における新卒者合格率の上位定着、共用試験全合格を達成する。医療短大は、将来構想を確立するとともに、歯科衛生士国家試験、介護福祉士卒業時共通試験について全員合格を達成する。成績不振な学生の補導、教育、指導を充実する。

〔教育の質の向上〕

第四に、講座分野の再編等、教員組織の見直しを行う。また臨床実習の質の確保に取り組みとともに、診療参加型臨床実習のモデル化を目指す。大学基連協会および日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価受審の対応に万全を期する。

〔大学院教育および研究の質の向上〕

第五に、大学院の入学定員確保を目指す。国内外の先進的研究施設の派遣や共同研究を推進する。先端科学、再生医学および老化制御の各研究センターの特性を生かした多領域での研究強化を図る。科研費のほか、学術研究振興基金や厚労省研究助成等の獲得を目指す。

〔安全で良質な医療の提供〕

第六に、医療機能評価受審の対応に万全を期する。小児科、整形外科を開設して総合医療センターとしての拡充を図るとともに、将来構想に基づく新病院建設計画を推進する。病院、口腔医療センターは患者増に努める。

〔地域の保健・福祉への貢献〕

第七に、介護老人保健施設と介護老人福祉施設は、地域の保健福祉のモデル施設としてサービス等の充実に努め、デイケア・アイサービスを含め利用者増を図る。新特別養護老人ホーム開設計画を進める。また、教育、研究、研修の場として一層充実させる。

〔社会連携・国際連携〕

第八に、医科歯科総合病院、口腔医療センター等を積極的に活用し、歯科医師の資質向上、病診連携、生涯研修の充実等を推進する。また公開講座、地域への出前講座等を拡充する。欧米大学等との交流協定締結を促進する。

〔財務・人事〕

第九に、教育研究振興のため、適正な帰属収支差額の確保に努めるとともに、寄附に伴う税制上の優遇措置の周知を図り、寄附件数の増加に努める。業績評価の処遇への反映の適切性を検証し、事務職員の管理職任期制の活用など、人事考課制度の改善充実を図る。

〔安全管理・法令遵守〕

最後に、第十として、福岡学園情報セキュリティポリシーおよびハラスメントの防止等に関する法令倫理を正しく理解し、情報の保護保全、人権擁護等に努めるとともに、社会から信頼・共感の得られる行動を実践する。快適安全で環境に配慮したキャンパス整備を図る。

以上を今年の重点項目として、法人教職員が丸となり、「学生が意欲をもつて勉学し、同窓生が誇れる母校」「地域の歯科医療への貢献」「国際レベルでの研究と国際交流の推進」を目指したいと思っております。

新年を迎え、皆様のご健康と学園の一層の発展を祈念して、新年の挨拶いたします。どうぞ、ご元気で頑張りましょう。

教職員・学生・父兄・同窓会の
連携をしっかりと進め、
新たな目標へ

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族や親しい皆様と共に、平成二十五年の新しい年を迎えられ、それぞれの夢に向けて、この一年の計を建てられたことと思っております。

ことしは癸巳（みずのとみ）の年、六十年周期の折り返し点である三十年目に当たります。癸巳は「四方に刃を持つ武器」「巳は「胎児」を意味するそうです。癸巳はこれまでに作られたものを壊し、新たな生命を作り出す時を意味する年であると言えます。昨年、創立四十年を祝った福岡歯科大学にとつても、今年、創立五十年に向かう、新たな時代の始まりになる記念すべき年でもあります。一人一人がその役割を自覚し、自信を持って行動することによって、福岡歯科大学を支えていくことが、本学の新しい十年を着実に始めることにつながります。

医療法が改正されておよそ二十年の間、医療の役割は、疾病の治療から健康の保持へと大きく変化してきました。同様に、歯科医師の役割は口腔の疾患治療から、口腔の健康保持へと、その意識は変わりつつあります。「口腔の健康を通して全身の健康を守る」歯科医療を実践することが、福岡歯科大学の新しい十年の歴史に求められることであり、堅実に努力することで、本学の歴史と伝統が創られるのだと思っております。

本学がこれまで強く発信してきました「口腔医学」を、更に発展させるために、皆様の創意と一層の努力をお願いします。社会から信頼され、医師として正当に評価される歯科医師を育成するために、これからは皆様と一緒に努力したいと思います。

歯学部を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、この状況は日本固有のものであり、歯科医療、歯科医師の役割が軽くなったことを意味するものではありません。私達が為すべき

とは、ただ一つ「教養と良識を備えた、有能な歯科医師を養成するために、堅実に一人一人の為すべきことを実行すること」に他ならず、行いべきことはありません。診療参加型臨床実習を始めとする教育の改善、質の高い入学者の確保、研究者の養成を図る中で、後継者を育成する努力を、不断なく行うことが、この厳しさに立ち向かい、伝統を創っていく、唯一の道であると思っております。私達一人一人は微力ですが、一人一人の自覚した行動とその行動を緊密に繋ぎ、理念に向かう共通認識によって、大きな力に変えることができます。日々の教育、研究診療の中での創意と工夫、改善を、実直に進めていくことによって、本学園の中期構想を創造する一つ一つを実現していくことにより、新しい福岡歯科大学を形作るものに変えていくことができ、社会からその存続を祝福され、大きな信頼を勝ち得ることができると思っております。

福岡学園は、小さな大学であり、教職員学生一人一人が分担すべき責任と義務と努力は時には過大なものと思えますが、そのことを過大な要求と捉えるのではなく、教職員・学生がお互いを強く信頼し、行動できる環境にあることを、大きな組織では作り得ないものと理解することによって、弱点を強さに代えることができます。福岡歯科大学、福岡学園の特徴を生かして、教職員、学生、父兄、同窓会の連携をしっかりと進め、更に強い社会からの信頼を得られるよう、今年一年、努力したいと思います。皆様におかれましては、それぞれの立場で福岡学園の目標に貢献できる目標を建て、その目標に向かつて邁進していただきたいと思います。

皆様お一人お一人の夢がこの一年で着実に実現に向かい、本年が皆様にとつて素晴らしい年になりますことを心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶に代えさせていただきます。



学長 北村 憲司

学部学科の名称変更について

学校法人 福岡学園 理事長 田中 健藏

「歯学部・歯学科」の名称を、次のとおり変更することになりましたので、お知らせいたします。

■新学部学科名／「口腔歯学部・口腔歯学科」

(学位は学士(歯学)であり、変更はありません)

■変更の時期／平成25年4月

■新名称の対象／第1学年～第6学年

〔名称変更の趣旨〕

近年の歯科医学教育・歯科医療は、単に歯牙とその周囲組織の病変にとどまらず、口唇、口蓋、舌、唾液腺、顎骨、顎関節など、広く口腔領域の疾患を対象としており、疾病構造の変化、少子高齢化による患者層の変貌、歯科患者の一般医科疾患の有病率の増加、歯科疾患と一般医科疾患との関連性の解明、医療に対する国民のニーズの変化、技術の向上に対応しています。また口腔ケアは、高齢化社会における高齢者の誤嚥性肺炎の予防やQOLの向上に貢献しています。このように、歯科医療と一般医科医療との関係は大変密になっており、「患者中心の医療」を推進するには、歯科医学教育・歯科医療にも全身医学への充分な知識の修得が不可欠となっております。

特に、福岡歯科大学では全国に先駆け、「口腔の健康を通して全身の健康を守る」歯科医師の養成を目指して、従来の歯学に一般医学・福祉の要素を取り入れた、より総合的な口腔医学教育を実践しています。

ついで、本学における教育の基本組織である学部学科の名称を、現在の名称である福岡歯科大学・歯学部・歯学科から福岡歯科大学・口腔歯学部・口腔歯学科に変更するものです。

アポトーシス関連タンパク質やシグナル伝達系タンパク質等を高感度で検出するための「ルミノ・イメーリアアナライザー」(写真1)や酸化ストレスにより生じる酸化ヌクレオチドを化学的に分離・解析する「ACQUITY UPC IIC UVシステム」(写真2)、多種多様な細胞や組織について細胞生物学的な解析を行うための「HS オールインワン蛍光顕微鏡」(写真3)等を導入しています。

センター長「就任おめでとうございます。まず、本研究の目的を教えてください。生物は様々な環境ストレスに対応して生命を維持する能力を持っていますが、そのもとなる情報はゲノムの中に保持されており、情報を的確に取り出して応答する機構を明らかにすることが老化の進行や疾患を抑制する方策をたてるためには必要だと思えます。本研究はそのような観点にたつて研究を進め、疾患の治療に役立つ情報を得るとともに老化の進行を抑える基盤を確立しようとするものです。センターには最先端の分析機器等が導入されていますが、代表的なものを紹介してください。

また、この研究にはアメリカやフランス、中国の研究者も参加しており、国際的な情報交換や研究協力体制をつくり、世界的な研究拠点を形成していきたいと思っています。

これらの最先端の機器と最新の情報を共有しつつ弾力的に研究を進めたいと考えています。これからの展望について教えてください。当センターでは主に老化に焦点を絞り研究を行います。そのシーズ(種)は本学の先端科学研究センターでの研究で生まれたものです。先端科学研究によつて発がんの抑制機構に関わる新しいアポトーシス制御機構や老化の制御に関わると考えられる新しいRNA結合タンパク質を発見しました。高齢社会を迎えた日本にとつて「老化」は「がん」に代表される難治疾患に次いで解明すべき最大のターゲットといえます。「がん」を主なターゲットとする先端科学研究センターと「老化」の抑制をめざす老化制御研究センターが手を取り合つて活動することで、福岡歯科大学を基点とする研究を拡げていきたいと思っています。

インタビュー

早川浩教授にインタビュー

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」が採択され、その研究推進母体として「老化制御研究センター」の設立が昨年7月の理事会で認められました。

そして、研究代表者の生化学分野 早川浩教授が11月1日付けで老化制御研究センター長に就任。最先端の分析機器も続々と導入され、老化制御研究センターが始動しました。



写真1



写真2



写真3

私立大学教育研究活性化設備整備事業に採択

文部科学省が公募した「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に、本学が提案した「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」が採択(平成24年10月31日付)されました。

臨床実習期間の1年半への延長など、教育内容の改善充実への努力が認められ、かつ患者型ロボットを導入して緊急時対応実習とその客観的技能評価を試みようとする意欲が評価されたもので、交付額は15,000千円の予定です。

40周年記念式典・祝宴

次の50周年に向けて決意を新たに



10月20日(土) 本学本館9階講堂において福岡歯科大学創立40周年記念式典を執り行いました。

式典には、村田善則・文部科学省高等教育局医学教育課長、村上恵・日本歯科医師会専務理事、中村量一・日本私立大学協会副会長、安井利一・日本私立歯科大学協会副会長・専務理事など多くの来賓の方々と本学同窓会役員にご臨席賜り、また多くの在校生にご出席いただきました。

本学の40年の歴史を振り返る映像を上映後、本田武司常務理事による開式の辞に始まった式典では、田中健藏理事長が、本学の設立ならびに国民福祉の向上にご苦労・ご努力された多くの先達・先人に対し敬意を表すとともに、将来の方向性について、従来の「歯学」から歯とその周囲組織を包括する口腔領域全体の疾患の予防治療を対象とし、



本田武司 常務理事



田中健藏理事長

全身の健康保持を行う「口腔医学・口腔科」の学問体系の確立・育成を目指し、たゆみなく努力を続けていくと述べられました。
来賓の方々から祝辞を頂戴した後、本学学生代表の安里啓君が「将来の夢と責任」を述べ、最後に出席者全員で校歌を斉唱し、閉式しました。



学生代表 安里啓君



村上恵一
日本歯科医師会専務理事



村田善則
文部科学省高等教育局医学教育課長



安井利一
日本私立歯科大学協会副会長・専務理事



中村量一
日本私立大学協会副会長



福岡歯科大学 創立

福岡歯科大学創立40周年記念祝宴



宮口巖同窓会長



水田祥代常務理事



北村憲司大学長



大石秀雄理事



ブリティッシュコロンビア大学
チャー教授

式 典終了後には、会場を本館1階へ移して、祝宴を開催しました。水田祥代常務理事による開会の辞に始まった祝宴では、北村憲司大学長による式辞、宮口巖同窓会長のご挨拶、ブリティッシュコロンビア大学チャー教授の祝辞と続き、大石秀雄理事に乾杯の音頭をいただきました。

また、祝宴では宮坂彩花（本学学生）さんによるピアノ演奏（シヨパンの「スケルツォ第2番」その他）があり、会場は美しい音色に包まれました。



宮坂彩花さん



今回の記念事業の実施にあたり、福岡歯科大学同窓会（150万円の寄附）等から多大なご支援、ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

シンポジウム 創立40周年記念口腔医学国際シンポジウム／学会総会

11月18日、本学において第39回福岡歯科大学学会総会(会長:大関悟 口腔腫瘍学分野教授)が開催され、学内外から283名の参加がありました。創立40周年を記念して行われた口腔医学国際シンポジウムでは、「医歯学一元化に向けた新しい口腔医学への取り組み—Novel Oral Medicine (Stomatology) toward the Integration of Medicine and Dentistry—」をテーマとし、北村大学長をはじめ海外で活躍する教授陣による講演がありました。参加者からは多くの質問がよせられ、活発な意見交換が行われました。また、講演後に演者によるディスカッションが行われ、医歯学の一元化という共通目標のもと、互いに理解を深めました。なお、学会総会における学会賞には香川豊宏講師(画像診断学分野)と堤貴司氏(有床義歯学分野 大学院3年)が選ばれました。

基調講演 「Innovation of Japanese Dental Education From Dentistry to Stomatology」 福岡歯科大学 北村憲司 大学長

講演1 「Transfer of Scientific Knowledge into the Dental Curriculum」 British Columbia 大学(カナダ) Charles Shuler 歯学部長

講演2 「Toward Patient-centered Practice」 慶熙大学校(韓国) Joon Bong Park 歯学部長

講演3 「Novel Oral Medicine」 ヤンゴン歯科大学(ミャンマー) Tun Ngwe 講師



福岡歯科大学
北村憲司 大学長



British Columbia
大学(カナダ)
Charles Shuler
歯学部長



慶熙大学校(韓国)
Joon Bong Park
歯学部長



ヤンゴン歯科大学
(ミャンマー)
Tun Ngwe 講師

創立40周年 健康まるごと福岡学園

10月27日、28日の2日間、福岡歯科大学キャンパスにおいて福岡学園の総合イベント「健康まるごと福岡学園」が開催されました。初日はあいにくの天気となりましたが、2日目は青空が広がり、多くの来場者で賑わいました。

学園祭「田の歯科祭」

正門北側駐車場を会場として第38回「田の歯科祭」が行われました。ステージでは「くまたまさし」や「ルームメイト」のお笑いライブをはじめ、地域の子供達による迫力あるダンスや太鼓演奏、学生によるカラオケ大会など、多くのイベントで盛り上がりました。



からだの科学展

本館1階学生ホールおよび学生食堂において「見る・聞く・触れるからだの不思議」をテーマに開催され、延べ1000人以上の来場者で賑わいました。口の粘膜からDNAを取り出す実験や、実際に歯科治療で使用する薬品を使った科学実験やデコレーションなどを通して、子どもから大人まで楽しからだの不思議を体験しました。



医科ミニ講座

病院1階の受付ホールにおいて、医科の先生方による講演を行いました。27日は内科、心療内科、外科、28日は耳鼻咽喉科、眼科、形成外科の先生方によって、身近な病気からアンチエイジングまで様々なテーマが取り上げられました。



歯科無料相談

28日に歯科の専門医による歯科無料相談を行い、むし歯や歯周病、矯正など、子どもから大人まで70人を超える相談者が来場しました。その6割は本学医科歯科総合病院未受診の方であり、イベントを通じて地域の方々へ学園を知ってもらう良い機会となりました。



講演会

本館9階901講義室において、福岡敏雄先生(財団法人倉敷中央病院・総合診療科/救急医療センター・主任部長)による「その情報あってますか?健康のための情報活用法」と題した講演会が開催されました。参加した100人を超える聴講者は熱心に耳を傾け、多くの質問がよせられました。



短大企画

本館1階学生食堂において、歯科衛生学科は歯周病ケアや歯にまつわるクイズ、保健福祉学科は障害者や高齢者の介助・介護体験や手洗い体験などを行い、延べ600人を超える来場者が訪れました。



介護施設見学・介護無料相談

介護老人保健施設サンシャインシティおよび介護老人福祉施設サンシャインプラザにおいて、施設を開放して施設見学と施設職員による介護無料相談が行われました。併せて、利用者の方々の作品も展示されました。



40周年記念学生企画一部活の歴史

創立40周年を記念して、学術文化部と体育部を合わせた24の各部が、創部から現在までの歴史や近況報告などをまとめ、パネル展示を行いました。来場者はそれぞれの部が試行錯誤して作り上げたポスターを熱心に観賞していました。



College News 歯っぴ〜コンテストで金賞・銀賞をダブル受賞!

福岡市歯科医師会が主催する第14回歯っぴ〜コンテストの「CG・イラスト・絵手紙部門」で本学D.T.P部の菅毅典君(第4学年)が金賞、同じくD.T.P部の松本悠里さん、西谷香里さん、魚住萌さん(いずれも第1学年)が銀賞を受賞しました。

歯っぴ〜コンテストとは、お口の健康を新しい視点で考えてもらうという主旨で、福岡市歯科医師会が平成11年より毎年開催しているコンテストで、「いいいは」の日である11月8日に行われます。全国各地から多数の応募がある中、金賞・銀賞のダブル受賞は快挙と言えます。



菅 毅典君



松本 悠里さん、
西谷 香里さん、魚住 萌さん

4月から小児科、整形外科開設

本学では、「口腔医学」によって、口腔の健康を通して全身の健康を守ることができる歯科医師を養成するため、歯科だけではなく、内科、外科をはじめとする一般医学の充実にも取り組んできました。その一環として、本年4月から本学医科歯科総合病院に小児科、整形外科が新たに開設され、既存の歯科・医科診療科と緊密な連携をとって総合的な医療を展開いたします。

比嘉奈津美氏(8期)、衆議院議員に



本学卒業生の比嘉奈津美氏(8期)が12月16日に行われた第46回衆議院議員総選挙で沖縄3区から立候補し、当選されました。《略歴》本学卒業後、離島診療等を経て、なつみ歯科医院を開院。日本歯科医師会男女共同参画委員、沖縄県歯科医師会副会長、沖縄県歯科医師連盟理事長等を歴任。沖縄県出身。(9頁の同窓生からの手紙に関連記事)

平成25年度第1学年新入学生より学納金を6年間総額450万円減額!

学生の経済的負担を軽減するため、今日の社会状況等を考慮して、学納金を6年間総額2,630万円にします。

※平成25年度AO入試I期・II期、推薦・指定校推薦入試、一般入試A日程・B日程、センター利用入試I期・II期で入学された新入学生が対象となります。

第1学年/5,500,000円

分割の場合 前期/3,350,000円 後期/2,150,000円

費目	金額(円)	費目	金額(円)
入学金	500,000	父兄後援会費 入会費	50,000
授業料	3,000,000	父兄後援会費 年会費	30,000
施設維持費	600,000	学生会費	20,000
教育充実資金	700,000	学生共済会費	600,000
小計	4,800,000	小計	700,000

第2学年～第6学年/各4,350,000円

分割の場合 前期/2,200,000円 後期/2,150,000円

費目	金額(円)	費目	金額(円)
授業料	3,000,000	父兄後援会費 年会費	30,000
施設維持費	600,000	学生会費	20,000
教育充実資金	700,000	学生共済会費	—
小計	4,300,000	小計	50,000

充実の特待生・奨学金制度

一般入試A日程特待生制度

一般入試A日程の成績が特に優秀である者3名を特待生として選抜、授業料が国立大学と同額になります。

●授業料年間53万5,800円

●初年度納付金

平成25年度以降入学A日程特待生 約246万円免除 平成25年度以降入学A日程特待生 23万5,800円(別途、委託徴収金70万円が必要)

【概要】将来の歯学界を背負い口腔医学を担う人材育成のため、一般入試A日程における特待生を募集します。

【対象】一般入試A日程の入学者 【募集人員】3名

【選考基準】本学特待生規程その他の規定による ①一般入試A日程の入学試験の成績が特に優秀であること ②品行方正であること ③健康であること

【通知時期】一般入試A日程の合格発表時 【その他】2学年以降は、学業成績による継続条件があります。

特待生制度

①学業成績(新入学生にあたっては入学試験の成績、その他の学生にあたっては前年度のそれをいう。)が特に優秀であること。

【平均点が80点以上の者で、推薦数は各学年2名とする。】

②品行方正であること。 ③健康であること。

特待生には、その年度の学納金の半額を免除します。

奨学金制度

名称	種別	貸与額/月額	期間	募集時期	採用人数	返還の有無	備考
福岡歯科大学 学生共済会	特別奨学金	毎年度 学生納付金の範囲内	1年・半年(毎年申請)	3月/9月	若干名	有	会員(父兄)が死亡または病気等により、学生納付金の納付が著しく困難と認められる場合に貸与
	一般奨学金	月額 甲種 50,000円 乙種 100,000円	1年・半年(毎年申請)	3月/9月	約45名	有	経済理由により必要と認められる場合に貸与 第1学年次の9月から応募可能
	就学共済金	授業料の半額(給付)	1年・半年(毎年申請)			無	会員(父兄)が死亡した場合 翌期より給付
日本学生 支援機構奨学金	第一種 (無利子)	月額 30,000円～64,000円	1年～6年(継続)	4月	若干名	有	
	第二種 (有利子)	月額 30,000円～160,000円	1年～6年(継続)	4月	若干名	有	

その他、自衛隊貸費学生制度、森田奨学育英会、地方公共団体(各都道府県など)による奨学生募集に応募できます。

※詳しくは学務課にお問い合わせください。

福岡歯科大学口腔医療センター 1周年記念報告会を開催

12月16日、口腔医療センターの開院1周年を記念した報告会が当センターにて開催されました。報告会では田中健蔵理事長、北村憲司大学長の挨拶の後、松浦正朗センター長をはじめとするスタッフ9名がそれぞれの業務における現状や課題、今後の展望等について報告を行いました。

長友泰明監事ご逝去

本学園の長友泰明監事が12月7日午前6時24分呼吸不全のため逝去されました。同氏は社団法人九州・山口経済連合会の事務局長、常務理事を歴任された後、平成14年4月から本学園の監事として学園の発展のため尽力されました。享年78才。 合掌



慰霊祭 第37回実験動物慰霊祭

10月11日、本学動物慰霊碑前において第37回実験動物慰霊祭が執り行われました。日頃、アニマルセンターを利用し実験等に携わる関係者が多数出席し、実験動物の御霊に感謝するとともに、慰霊の儀が執り行われました。



慰霊祭 第37回献体者慰霊祭

10月11日、萬行寺(博多区祇園町)において第37回献体者慰霊祭が執り行われました。ご遺族、養護施設関係者をはじめ、福岡歯科大学学生および学内外の関係者420名(学外185名、学内235名)が参列し、献体者の尊い御霊のご冥福を祈りました。



クリスマス・忘年会

サンシャインシティ「クリスマス・忘年会」

12月16日、介護老人保健施設サンシャインシティにて「クリスマス・忘年会」が開催されました。入所者や職員による出し物などが披露され、入所者や利用者、ご家族、職員ら共々大いに賑わい、楽しいひと時を過ごしました。



健康相談 お口と体の無料健康相談

10月14日、早良区の商店街(西新、中西、高取)において行われた勝鷹夢祭りに本学から「お口と体の無料健康相談」のブースを出展しました。1日だけの開催でしたが、120名の方が相談に訪れ大盛況のうちに終了しました。



特別講義 大学院特別講義

10月24日に本館5階504講義室において、ブリティッシュコロンビア大学Ravindra Shah教授による”The meaning of Internationalism”「真の意味での国際化とは何か」、11月5日に同講義室において、ノースキャロライナ大学 山内三男教授による”Control of collagen cross-linking in bone”「骨におけるコラーゲン架橋形成の制御機序」、11月28日には九州歯科大学・生命科学講座・分子情報生化学分野 福島秀文助教による「タンパク翻訳後修飾が織りなすリサーチネットワーク」と題した大学院特別講義がそれぞれ開催されました。大学院生をはじめ、教員も多く参加し、聴講者は熱心に耳を傾けていました。



ブリティッシュコロンビア大学 Ravindra Shah教授



ノースキャロライナ大学 山内三男教授



九州歯科大学 福島秀文助教

コラム「対心」

人はポリスの動物か？

アリストテレスは「人はポリス(社会)的動物であり」、言語によって相互に理解し、共通の価値観、目的を持つことによって、人たりの存在となるとしている。しかし、都市の規模が小さく、地域と国と地球が同義であった

ギリシア時代の金言を、現代に当てはめることには無理があるように思える。アテネの市民の数は数万人であったことからすると、ポリスの範囲はせいぜい早良区程度である。人はポリスでは到底収まりきれない規模に発達した現代社会の中に、古き良き時代として村的な社会を夢見ているように思われる。「人は地球(社会)的動物である」ことを示すこと

が、ギリシアの金言と等価の現代の哲学であろう。私達の心が現代社会に追いつけていないのであれば、アリストテレスの時代にそのような社会が成り立っていたというのは、現代人の幻想にすぎないのかも知れない。アリストテレスに代わる金言が未だ見つけられないのは、言葉の限界によるのだろうか、それとも人の限界によるのだろうか。

宮崎県福岡歯科大学同窓会 学術講演会

「天然歯はどこまで残せるか？」

V S インプラントはどこまで使えるか？」

峯田 公隆 (17期生)



左:講師の谷口宏太先生
右:山田俊介宮崎県同窓会長

台 風の接近で、風雨共に激しくなりつつある平成24年9月29日(土)、宮崎県

歯科医師会館にて福岡歯科大学宮崎県同窓会(宮崎県福岡歯科大学同窓会)夏季総会・学術講演会が開催されました。今回の学術講演会の講師として御来県いただいたのは鹿児島市のハートデンタルクリニック 谷口 宏太先生で、「天然歯はどこまで残せるか? V S インプラントはどこまで使えるか?」というテーマで御講演いただきました。谷口先生は、1984年に開業以来3か所の異なる場所で医院を移転開業させているバイタリティー溢れるご活躍中の先生です。講演内容の前半は歯牙の保存という観点から歯周治療とマイクロスコープを応用した治療症例を数多く拝見させていただきました。特に15年以上前からご使用になつておられるマイクロスコープ治療の動画と治療症例には、マイクロスコープの使用経験のない先生方には、非常に興味深い内容だったと思います。また、歯周病専門医として歯周病患者の初期治療、歯周外科、再生治療(GTR,GBR,EMD,ゲイン)、メンテナンステラと治療へのアプローチの仕方など患者様との治療の紆余曲折のエピソードも交えながら、長期予後の症例も数多く拝見させていただきました。講演後半にはイン

プラント治療のメリット、デメリットについてお話しいただき、現在多岐にわたる術式(抜歯即時インプラント、ソケットリフト、サイナスリフト、スプリットクレストなど)の問題点、合併症とその対処法にも触れてお話いただきました。今回は、歯周病専門医の観点から「歯牙の保存可否か」を考察いただきましたが、講演を拝聴し、我々歯科医にとつて改めて一本の歯の保存について、考えさせられる良い機会となる講演内容であったのではないかと思います。会場内には、是非とも講演を聴講したいという希望の同窓生ならびに、同窓以外の宮崎県歯科医師会会員の先生方が多数ご来場されておりました。

講演会終了後には、同窓会主催の懇親会が行われました。今回は福岡歯科大学同窓会会長の宮口先生と広報理事の佐藤先生にも総会および懇親会にご臨席賜り本学と各県同窓会の現状などをお話ししていただきました。谷口先生には同窓会の先生方とお酒を酌み交わしながら講演会会場ではお聞きできなかったワンポイントアドバイスや裏話などもお聞きすることができ、谷口先生も楽しいひと時を過ごされたようでした。懇親会は谷口先生の今後の御活躍と宮崎県福岡歯科大学同窓会の益々の発展を同窓生らで祈念して盛会のうちに幕を閉じました。



卒業生 NOW

大学院大学としての機能の充実

弓削 文彦 (30期)

皆様こんにちは。私は30期卒業の弓削文彦と申します。

平成20年から北海道大学病院歯科診療センター研修医を経て、現在は北海道大学大学院歯学研究の大学院生4年生として診療では大畑昇教授、高道理講師のもとリハビリ補綴学教室、研究では土門卓文教授、高橋茂准教授のもと口腔機能解剖学教室で指導を受けております。

北海道大学は福岡歯科大と非常に縁が深い大学で、数多くの北大出身の先生が福岡歯科大に在籍しており、また、福歯大出身者もここ4年で研修医として一名、私を含めた大学院生二名が在籍しています。

現在、私は大学院最終学年にありますが、この一年は人生の中で一番睡眠時間が少なかったと思います。いろいろな締切に追われ、椅子で寝る

のにもなれ、一時期は週3,4回の徹夜。そんな大学院生活もあと少しで終わりに近づいてきました。そんな大学院ですが、現在ほとんどの国立大学の歯学部では大学院重点化を行い、研究や教育といった大学院大学としての機能の充実を図ってきました。確かに歯学部の学生は減るばかりなので大学院重視になるのわかります、しかし言い換えると歯科医師は大学院を卒業しなければならない時代が来るのかもしれない。聞くところによると福岡歯科大の大学院は留学や金銭面の補助など大学院生活をおくるにあたり他大学に比べずごく充実しているようで、このような中で研究や臨床をやっているのはすごくうらやましく思います。

さて私ですが、大学院が終わるとまた人生の岐路に立つのですが、もう少し北の大地で研鑽を積み、いつか福岡歯科大に戻ろうと密かに考えている次第であります。



著者最後列左端

同窓生からの手紙

同窓会活動を活性化

同窓会副会長 神田 晋爾

福岡歯科大学同窓の皆様、各地域で市民の健康に貢献され、ますますご活躍の事と存じます。さて、我が母校も創立40周年を迎え同窓も3,942名になりました。その中で、本学は、全国に先駆け、口腔医学の学問体系の確立と共に医科、歯科一元化を提唱し、歯科の対象は全身の中の口腔であるという位置づけを確立させてきました。また、同窓生においては、初めて地方区から国政へ参加する事になりました。いよいよ、地域の歯科医療だけでなく、我が同窓が、国民の健康、福祉の増進に寄与する立場になろうという時代になってきました。

今回、第46回衆議院選挙に、皆様もご存知と思いますが、自由民主党・沖縄県第三選挙区から同窓生の「比嘉なつみ先生」が、立候補し、見事当選しました。先生は沖縄県歯科医師会で女性として全国初の副会長であり、沖縄県歯科医師連盟理事長を歴任され、平成18年からカンボジアで歯科医療ボランティア活動を通じて、子供たちの健康に貢献している彼女は、趣味・特技として、泡

盛マイスターや、フランスブルゴーニュワイン・チーズの騎士叙任師、日本酒刷酒師でもあります。あらゆるお酒にも精通した(…かなり酒豪のイメージをしてしまいましたが…)本当に多才な先生です。歯科医師としては、久米島の離島がスタートであり、またカンボジアでの貢献等を見ても、己の事より、他人の幸せを自分の幸せとしてとらえる方です。そして、その為の努力は惜しまない、本当に面倒見が良い先生です。学生時代の同級生に言わせると、親分肌のマダム的な存在だったそうです。政治家はいろいろな意味で、人間力、人を引きつけ引っ張る魅力が必要です。今回、そのすべてを兼ね備えている同窓「比嘉なつみ先生」が国政にうって出た事に、まさに感動さえています。同窓会としても、様々な支援をしていきたいと考えております。また、現在、時代の変化に応じ、今まで以上に、同窓会活動を活性化するため、諸規則・規約機構検討委員会をたちあげ、役員を中心とし、時代、同窓生のニーズに合った同窓会となるべく、規約等を見直しています。皆様方もご意見等あれば、いつでもご連絡ください。

最後に、沖縄在住ではない先生方もふくめ、我が同窓の「比嘉なつみ先生」を丸となって今後も支援していただく事を、改めてお願い申し上げます。よろしくお願ひ致します。

一地域歯科医療に貢献

小副川 浩倫 (20期生 / おそえがわ歯科(佐賀県佐賀市))

父の知識と経験のすべてを学ぶ。

皆 様こんにちは。二十期生の小副川浩倫と申します。卒業後は大学院に進み、口腔治療学講座歯科保存学分野で学ばせていただきました。井上廣先生のご指導のもと学位を取得したのち、同医局にて助手として二年にわたり研究・教育・臨床に携わりました。この時学生の指導をさせていただいた事が、臨床において患者様への説明やスタッフの指導・教育にとっても役立っていると思います。

退職後、北九州市小倉の岩井章浩先生の歯科医院で二年間勤務し、一般臨床全般を丁寧な指導していただきました。岩井先生からは、院長自ら率先して掃除などをする事により、ユニットや器具の状態を把握、さらに自分がユニットに座り確認することによって、患者様の視線で初めて見えるいろいろな事を教えていただきました。岩井先生のもとでの二年間はとても勉強になり、今の診療に対する考え方の基本になっています。その後いくつかの歯科医院をお手伝いし、それぞれ



の地域にあった診療を学ばせていただきました。

現在は父の開業する診療所に戻り親で診療を始め五年が経過します。当医院のある佐賀市与賀町周辺は人口の減少と少子高齢化が顕著で、高齢者の方の来院が多い為、保存科出身の私は義歯や咬合について苦労しております。幸運にも今現在、父と仕事が出来ていますので、父の知識と経験のすべてを、学ぼうと努力しています。今後は、地域歯科医療に貢献すべく更なる技術の研鑽とエビデンスに基づいた診療を心がけていきたいと考えております。最後になりましたが、今後みなさまの御指導、御鞭撻の程、よろしくお願いたします。

一ヒトを診る

全身管理と言う概念

み なさま、こんにちは。12期生の荒瀬陽一と申します。振り返れば、学舎を出た時から、四半世紀に近い時が流れたのだと、感慨に耽っております。富岡徳也教授の下で2年間、歯科口腔外科の基礎を拳骨と共に叩込まれ、野に下ったのが昨日のように思い出されます。

歯科医師をしております父親への反発、その父親の他界、色んな事が在りましたが、縁があり、平成24年の7月に熊本の町外れのショッピングモール内に自院を開設する運びとなりました。

口腔外科の道を歩む者らしく、病院内にはインプラント手術室を備えており、また点滴静注などにも対応



荒瀬 陽一 (12期生 / 荒瀬歯科医院(熊本県))



しております。口腔外科の研鑽を積んできて一番良かったなあと、思う事は全身管理と言う概念を植え付けて頂いている事ですね。この先も有病者治療は増えていきますので、今の知識に奢る事無く研鑽を積んでいきたいと思っております。

我々歯科医師は、歯を治療しているけど、歯を診るのでは無く、ヒトを診ているのだと言う事を常に念頭において日々の診療に励んでいるのです。そう言う意味でも、口腔外科の門をたくたく若き先生が増えるの良いなあ：と、思っている初老歯科医師です。(笑)

FROM STUDENTS

学生からのメッセージ

楽譜を開くと...



宮坂 彩花 (大学第5学年)

40周年記念式典で演奏しましたが、これは自分自身と音楽との関わりについて考えてみる機会になりました。

楽譜を開くと、そこから対話が始まります。自分との対話...どう指を動かし、身体を乗せるか、できることとできないことを知り、努力する。音との対話...音の変化に気づき、意味を考え、音の色を感じる。作曲者との対話...誰に影響され、どう人生を歩んだか、曲ができた背景と、作曲者の人となりを知る。先生との対話...「この和音の進行は演歌とも共通しているよ」など思いもよらない発見をさせてもらう。ひとつの音楽作品と向き合うことで、様々なステップで様々な対話をして、たくさんの気づきに出会います。それは音楽という営みの中に自分以外の「人」を感じることに思っています。

ピアノは子どもの頃からずっと続けてきて今では趣味という位置付けになっていますが、この「対話と気づき」は、歯科医療にも少し似ているのではと思っています。自分の技術でできることとできないことを知り、努力する。患者さんと話し、症状に気づき、人となりや生活習慣、価値観を知り、その人にとって最適な治療方針を共に考える。つまり、自分や他人と対話し、気づき、自分以外の「人」に寄り添うからです。

人生の真理を学ぶきっかけはどこにあるかわかりません。仕事かもしれないし、趣味や遊びかもしれない。自分や人との対話を忘れず、その真理を見逃してしまわないよう常にアンテナを張っていたと考えています。



一度あきらめた夢



角岡 宏亮 (大学第4学年)

私は熊本出身の在学3年目の4年生、要するに編入生です。

熊本で22年間、何も考えずに生きてきたという言葉がびびったりと当てはまるような生活を送って来ました。人生の大きな壁の一つである大学受験も大学の付属高校に通っていたのでいわゆるエスカレーター式に難なく突破しました。そして4年後に、「就職活動」という人生初の大きな壁に突き当たったのです。

就職活動中、よく「夢」という言葉に悩まされました。「あなたの夢は何ですか」とある会社の面接官に聞かれ、マニュアル通りの企業に好印象を持ってもらえるような嘘についておりました。本音で答えられないのは夢が無かったからです。無かったというより諦めていたのです。一応、こんな私にも「夢」はありました。子どもの頃から歯科医師である父の仕事を見てきて、憧れておりました。

高校に入学したあたりから自分では無理だろうと勝手に「夢」を投げ捨てていたのですが、就職活動という壁のおかげで夢に向かって再スタートする決意ができました。父に頭を下げて我が侭をきいてもらいました。そして夢への第一歩として、晴れて福岡歯科大学へ編入入学することが出来ました。

入学してからは自分なりに勉強、部活に励んできました。部活のキャプテンもつとめ、そして今回は学園祭実行委員長という肩書きまで担いました。しかし偉大な父の背中に少しでも近づくために「まだまだ」の精神で頑張っていきたいと思っています。



保護者様からのメッセージ

これからはいよいよ歯科医師です。

6年生のみなさん、長かったような、短かったような学生生活もいよいよ終わりをつけようとしています。それぞれいろいろな思い出を胸にしまい込み最後の砦の歯科医師国家試験を突破してください。

今、みなさんは、人生のまさに岐路にいます。学生と歯科医師では、比べようありません。これからは、歯科医師として新たな舞台に立ちいよいよ自分自身の人生を歩き始めていくことになります。責任も重くなってきますので、一人の人間として立派に成長してゆかねばなりません。

歯科治療が終わったとき「ありがとうございます」と感謝の言葉を残して帰られる患者さんがいます。何故でしょうか？私は、この意味を深く考えてもらいたいと思います。もし、患者さんの心の底からそのように言われたら信頼を得たことになるのではないのでしょうか。しかし、治療がうまくいかなかった時に、一気に信頼関係が壊れ驚く時もあります。人間相手の仕事は本当に難しいものです。しかし、上手くいった時には他にたとえようなない喜びも感じることが出来ます。

歯科医師がコンビニの数より多いといわれていますがいかがでしょうか？私は、まだまだ捨てたものではなく、とてもやりがいのある魅力的な仕事だと思っています。歯科医師として成功するために必要な事は、以下に掲げる事です。

1. 根気を持ち続けること。
 2. 知識向上
 3. スキル向上
 4. 話し上手、聞き上手であること。
- 日々信頼される医師になるよう努力してください。そうすれば、道は必ず開けます。立派な医師になるということは、必ず人間的にも成長させてくれるものだとおもいます。頑張れ



武田 和久 様
(父兄後援会評議員)

今、自分が行うべき事

みなさんが、この広報誌を読まれている頃には、新しい政権が誕生して国政も変わっている事だと思っています。今度こそは国民が安心して生活出来る政権である事を願うばかりであります。古代マヤ文明の暦の予言もノストラダムスの予言と同じく予言だけで終わって良かったです。最近では、宮崎も口蹄疫、新燃岳の噴火などと大変な災害に見舞われましたが、口蹄疫も無くなり宮崎牛が全国一位となり、新燃岳も落ち着いてきました。

私は、福岡歯科大学を卒業して直ぐ宮崎の父の下に勤務し、その後開業しました。父とは約1年半という短い期間でしたが、その間に歯科医師について色々教わりました。その後も色々な事が有りましたが、その時はいつも高校の恩師に言われた「我今何を成すべきか」という言葉が思い出され、今自分自身のやるべき事を考えながら、早くも25年が過ぎようとしています。

宮崎では、そろそろキャンプのシーズンが始まります。プロ野球、Jリーグなど多くの選手達が、レギュラーを目指して毎日努力し、自分の苦手な所を克服し、得意な所を伸ばす大切な時期となります。


学生のみなさんも進級又は6年生にとっては大切な国家試験が控えているこの季節を悔いの無いように過ごしてください。そして自分自身の為、みなさんを支えてくれている人達の為、そしてみなさんが将来治療を行う患者さんの為にも自分が今何を一番にやるべきなのか考えながらがんばってください。



財部 政浩 様
(父兄後援会評議員)

平成25年度 入学試験日程

福岡歯科大学

区分	歯学部				大学院 歯学研究科	
	一般入試A日程	センター試験利用入試I期	一般入試B日程	センター試験利用入試II期	AO入試II期	二次募集
募集人員	約35名	約4名	約5名	約4名	約3名	約18名(一次募集とあわせて)
願書受付期間	H.25.1.4(金)～1.31(木)		H.25.1.21(月)～2.20(水)		H.25.2.22(金)～3.13(水)	H.25.1.4(金)～1.23(水)
試験日	H.25.2.2(土)		H.25.2.21(木)		H.25.3.14(木)	H.25.1.25(金)
合格発表日	H.25.2.6(水)午後5時		H.25.2.22(金)午後5時		H.25.3.15(金)	H.25.2.8(金)
試験会場	福岡歯科大学及び東京ガーデンパレス		福岡歯科大学			福岡歯科大学
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp					 携帯電話からのアクセスはこちら!

福岡医療短期大学

区分	歯科衛生学科				AO入試(社会人含む)	専攻科・口腔保健衛生学専攻	
	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)		二次募集	三次募集
募集人員	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約5名	若干名
願書受付期間	H.25.1.4(金)～30(水)	H.25.2.1(金)～13(水)	H.25.2.18(月)～3.6(水)	H.25.3.11(月)～25(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H.25.1.4(金)～30(水)	H.25.3.11(月)～25(月)
試験日	H.25.2.1(金)	H.25.2.15(金)	H.25.3.8(金)	H.25.3.27(水)		H.25.2.1(金)	H.25.3.27(水)
合格発表日	H.25.2.7(木)	H.25.2.20(水)	H.25.3.13(水)	H.25.3.28(木)		H.25.2.7(木)	H.25.3.28(木)
試験会場	福岡医療短期大学					福岡医療短期大学	

区分	保健福祉学科				AO入試(社会人含む)
	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	
募集人員	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
願書受付期間	H.25.1.4(金)～30(水)	H.25.2.1(金)～13(水)	H.25.2.18(月)～3.6(水)	H.25.3.11(月)～25(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	H.25.2.1(金)	H.25.2.15(金)	H.25.3.8(金)	H.25.3.27(水)	
合格発表日	H.25.2.7(木)	H.25.2.20(水)	H.25.3.13(水)	H.25.3.28(木)	
試験会場	福岡医療短期大学				

問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp	 携帯電話からのアクセスはこちら!
------	--	--

キャンパス歳時記

恒例の餅つき開催

12月28日、本館玄関ホールにおいて毎年恒例の餅つきが行われました。つきたてのお餅を入れたぜんざいや温かい豚汁などがふるまわれ、役員や教職員などの参加者は、この1年を振り返りながら親睦を深めていました。



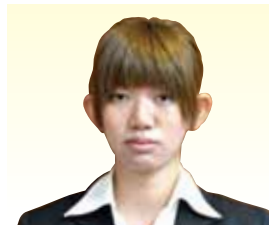
編集後記

哲学の先生からの年賀状に「人間が立ち直れるように哲学者は真剣に考えなければならない」とありました。宮城県亶理郡に住まれ、あの震災の際には避難所暮らしを強いられました。日本全体がおののき悲しんだ大震災を思い起こさせられました。昨年は北部九州でも豪雨による大災害が起こりました。「人間万事塞翁が馬」と達観するのは容易なことではありません。紙面でもお伝えしたように昨年は大学の40周年を皆様とお祝いできました。復興に今も骨を折っていらっしゃる方々に思いを馳せて今いちど襟を正し、41年目の日々をありがたく感じながら、この77号をお届けしたいと思います。(NT)

特別奨学生決定

福岡医療短期大学特別奨学生

平成24年度1年次特別奨学生に次の4人が選ばれ、11月13日に本館第1会議室において表彰式が執り行われました。特別奨学生は、当該年度の授業料の半額が免除されます。



歯科衛生学科
鎌田 紗央莉



歯科衛生学科
有働 笙葉



歯科衛生学科
増岡 睦恵



保健福祉学科
藤木 翔子